

会 議 録

会議名称	第6期幸区区民会議 第8回専門部会（魅力発信でつなぐ まちの活性化部会）
日 時	平成29年6月27日（火）18：30～19：50
会 場	幸区役所 4階第4会議室
出席者	●区民会議委員（50音順） 阿部稔子委員（副部会長）、伊藤善通委員、大野勝彦委員、神谷修委員（部会長）、高橋希委員、成川慎一委員（全体会議委員長）、松井節子委員（全体会議副委員長） ●事務局 幸区役所 田村副区長 幸区役所まちづくり推進部企画課 岸課長、吉岡課長補佐、中村職員、安藤職員（株）社会空間研究所 中島氏、田上氏
欠席者	佐野禎彦委員、中原敏子委員
傍聴者	なし
配布資料	●資料1 「魅力発信でつなぐ まちの活性化部会」調査審議スケジュールイメージ ●資料2 「区内3大拠点公園」の現地調査結果 ●資料3 「子育て支援センターかんがるー、おでかけぽかぽか」の現地調査結果 ●資料4 発信していく幸区の魅力について ●資料5 魅力発信に向けた今後の取組について ●参考資料1 「第6期幸区区民会議」スケジュールについて ●参考資料2 魅力の発信方法に関する取組例 ●参考資料3 第7回専門部会（魅力発信でつなぐ まちの活性化部会）会議録 ●参考資料4 第6期幸区区民会議委員・参与名簿
議 題	（1）現地調査結果の検証について （2）発信していく地域の魅力について

決定事項	(1) 現地調査結果の検証について ・資料及び委員からの報告により現地調査結果について確認し、検証を行った。 (2) 発信していく地域の魅力について ○発信していく地域の魅力を、「子どもも大人も、動物や自然にふれあったり、思いっきり遊べるまち幸」、「子育て支援が充実したまち幸」、「文化と商業が充実したまち幸」の3つの要素からなる「充実した子育て支援環境と支援、文化・商業が身近にある最幸のまち・幸」とする。なお、現段階では仮説とし、今後の追加等も考慮する。 ○次回の部会において、区の子育て支援担当者に対し調査を行う。なお、調査内容は今回仮説として設定した、「発信していく地域の魅力について」を主とし、事前に内容を伝えておくこととする。 ○次回以降の議題として、部会として実践的な取組を行うかについてと具体的な発信方法について議論する。
会議の内容 及び 主な発言	(1) 現地調査結果の検証について ●事務局より資料2及び資料3について説明した。 ○資料及び委員からの報告により現地調査結果について確認し、検証を行った。 ＜主な意見＞ ・最初の幸区内3大拠点公園について、意見の中に出ていたが資料に載っていないので載せてもらいたい部分がある。駐車場がないという部分で、南河原公園は明らかに駐車場がない。御幸公園もあるが一般には開放していない。夢見ヶ崎動物公園については台数が少ない。きちんと記載として残しておけば、資料は議員が見たりするので、問題点があるんだなということを残してもらいたい。 ・最後にまとめる時、最終的な表現は別にしても、三つのそれぞれの公園の特徴、良さというのをはっきりしている。一方でより魅力を高めるにはこういった改善、あるいは補強が不可欠。不可欠というのは言い過ぎかもしれないが、こうした施策が必要だ、ということは入れないといけない。 近くの方は黙っていても行くが、バスを使ってとか、車だと駐車場の問題があるし、そこの辺りが最後に発信する時にどういった形でPRするかが大事。南河原を使っている人たちはわかっている。使っていない人達はどうか。 ・古市場から南河原公園に来るとか、小倉とか日吉地区から南河原公園に行くかという、私の場合は南河原公園を子どもの時から知っていて、あそこに行くが、逆に言うと御幸公園、夢見ヶ崎動物公園があるのは知っていても行かない。野球をやっていたら野球の試合で御幸公園に行くことはあっても、それくらいの認識でしかなかった。

良い点をあげるのは重要だが、それに付随して「ここをもうちょっとやったらいいんじゃないの」という所が付け加えられればいいと思う。

- その公園独自の「市民と密着している」というキーポイントが一つあればいいと思う。例えば南河原公園はみんな利用しているが、南河原公園の仲間、という感じではないので、何かワンポイントがあればいいかなと思う。
- (御幸公園について) 菓子組合とか和菓子屋さんとか、梅を使った何かを考えようという動きはあるが、それが仙台の萩の月のように結びついていくかというところとわからない。まだもうちょっと梅の本数があって、梅の実が取れば。
- かんがる一は凄く良い施設でびっくりした。あまりにもうちの方が人が知らなかったもので、もう少しうまく宣伝して頂ければ良いのではないかなと思った。
さいわいふるさと公園について、非常に良い公園だと思ったが、大人が手を加えない、子ども達だけでもっと遊べる公園にしてあげた方が良いと思う。特に池は自然そのものだった。山のある部分とミックスするとちょうどいい公園になるのではないかなと思った。「ああいうのがある」ということを、知らない方が悪いのかもしれないが、あるんだよということが分かる区になればいいのではないかなと思う。特に若い人達には教えてあげた方が良いと思う。若い人達に聞いたが知らないよという人が多かった。もう少し宣伝すればよいのではないかなと思った。
- 公園の方は三か所とも行ったことがあるが、子育てをしている人は、過去に意見が出ているが、わざわざ行かない。行くのであれば、「ベビーカーを押して行けるところ、おんぶ抱っこで行けるところ、自転車で行けるところ、そんなに時間をかけずに往復が出来るところ」になる。子育て世代なので、三か所の公園をPRしていくという視点がどこなのかを考えた方が良いのではないかなと思う。
- おでかけぽかぽかは当日雨だったので、晴れていればもう少し参加者が来たと思う。区役所の資料の関係で、6月初めの広報が出来なかったもので、その関係もあって人が少なかった。
- 皆さんにご意見を頂いたが、基本的には子育ての環境としての公園にまとまると思う。支援策等についてはこれからいろいろ出てくると思う。町内会、自治体、ボランティアが沢山いる。
- 今指摘のあったところは一つ気をつけなければいけないところだと思う。三大拠点公園というのは幸区全体の魅力をアピールするには不可欠だと思う。今の指摘というのは、身近に、例えば南河原の公園は近くの方たちは最寄りの公園として行くでしょう。ところがそれ以外の公園は定期的に行くのは遠い。もっと最寄りの公園を重視する、という観点は必須だと思う。その視点は大事。三大拠点公園に行かない人にとっては魅力でもなんでもなくなってしまう。抑えとしては充実する必要があると思う。

- ・結構小さい公園はある。団地が出来るとそこに必ず公園はできるので、公園は意外とあるんだなと思う。
- ・おこさまづくに、規模の大小それぞれの公園の一覧がある。「三大拠点公園以外にもエリアごとにきめ細やかに色々ある」と抑えるとか、「そこからもっと充実したほうが良い」と対策するとか、抑えとしては入れた方が良いでしょう。
- ・幸区の公園の数は多いわけではないのか。
(事務局) 緑の面積、公園の数も少なく、一人当たりの緑の面積も一番少ない。管理組織については恵まれている。
- ・議論は時間がかかってしまうからこの議論については一旦打ち切ってしまうって構わないが、小規模、身近なものについても落とさず、すくい上げる。
- ・町内会や老人クラブが掃除している、ということもあるし、街路の清掃をしていたり、というのもあるのでそういうのも入ってくるのかと思う。
- ・子育てをしていると近所の公園はよく利用しているが、たまにはあっちに行ってみようかなど、色々チョイスして組み合わせていると思う。三大拠点公園の全部に行くかはわからないが、行く公園の規模を変えている。時期によって別の公園に行ったりする。区の魅力としては三大かもしれないが、皆が常時使う所ではないかと思う。

(2) 発信していく地域の魅力について

- 社会空間研究所が資料4、事務局が資料5について説明した。

- 発信していく地域の魅力を、「子どもも大人も、動物や自然にふれあったり、思いっきり遊べるまち幸」、「子育て支援が充実したまち幸」、「文化と商業が充実したまち幸」の3つの要素からなる「充実した子育て支援環境と支援、文化・商業が身近にある最幸のまち・幸」とする。なお、現段階では仮説とし、今後の追加等も考慮する。
- 次回の部会において、区の子育て支援担当者に対し調査を行う。なお、調査内容は今回仮説として設定した、発信していく地域の魅力についてを主とし、事前に内容を伝えておくこととする。
- 次回以降の議題として、部会として実践的な取組を行うかについてと具体的な発信方法について議論する。

<主な意見>

- ・細かい表現は違うが、私が前々回出した一枚のまとめと同じだと思うので異存はない。
- ・(2)の魅力についてはコンパクトで良くまとめられていると思う。これをいかに最終的にどうやって発信していくかになる。ただこれに付け加えてアクセスの問題などが出てくる時に次につながってくると思う。この資料については

良いと思う。

- 基本的には資料のような形で、後は課題をどう克服していくかという問題は出てくると思うが、まとめ方としては良いと思う。
- 解決できない問題だとは思いますが、そもそも保育所が足りない。魅力なので弱点をアピールするわけではないが、もし自分がターゲットである世代ならば、まず施設をちゃんとして、施設のレベルを上げてよ、というのを考える。意見を求めていったらそれが出ると思う。それを隠しているわけではないが、触れる方が謙虚でいいと思う。触れ方は難しい。発信する際の大きなポイントだと思う。
- これを見て、足りないところがすごく多いと思った。確かに乳幼児に対する支援は凄く充実してきているし、公園もあると思うが、「住み続けられるまち」と考えたときに、乳幼児期は凄く充実しているのに、自分が子育てしている実感として、学齢期に入った瞬間に、支援がぱたっとなくなる。そこがすごく弱いところだと思う。なので、例えば公園について、公園で乳幼児の親子が遊んでいる姿というのはほとんど見かけなくて、放課後になると小学生がすごく遊んでいる。なので、公園というのは今まで乳幼児の親子に対するアピールを出していたが、もしかしたらその上の世代の小学生に対する視点というのがあると良いと思う。実際、御幸公園は普段子どもが全然遊んでいないが、私たちが出張プレイパークをすると7, 80人の子どもが来るので、その視点も持ったらいいと思う。
- ターゲットは子育て世代ということで乳幼児だけとは限らない。
- 確かにいろんな人が住むとなると色々な要望が出てくると思うが、例えば年齢層を限って呼び込めば、上も下もついてくるのではないかと思う。幅を広げてしまうと視点がぼけてしまう気がする。
- (社会空間研究所) 課題は課題で整理しておいた方が良いと思う。それはそれで課題を明確にするというのは必要だと思う。この後大事なのは、「幸区の良いところ」、「幸区はこういうまちだよ」というのを広く知ってもらおうということを考えて、今日は「こういうことを広く、対象の、区在住の子育て世代に伝えたい」という事が同意出来れば良いと思う。そうすれば、次にどういう風に発信していけば、という所が議論できるし、細かく見る時は、それぞれの魅力の要素についても議論できる。
- 公園の駐車場について、南河原公園については明らかにない。書かないなら書かないでもいいが、書くのだったら正確に書いてもらいたい。
- 夢見ヶ崎公園の売店はもうやっていない。自販機しかないとなると、花見の時期はたくさんお客さんが来るのにどこで買うのか、そうするとゴミの問題も出てくるし、花見の時期に行くとちょっと辛いな、という気がする。

事務局より資料5について説明

- ・次回、第9回の部会まで1か月丸々開いている。公園、子育て支援センター、サークルをやっているところを拝見させていただいたが、それ以上にまだ行った方が良いところはあるか。
- ・今決めるところは資料5の3の(1)、(2)、これをどういった形でやるかやらないか。発信方法については間違いなく何かやる。(1)の所が先ほどの説明でよくわからなかったが、その次の参考の所に肉をつけるのか、次回の部会で日程を確認して決めようというのとどっちなのか。
(事務局) 次回の部会までの現地調査の候補として示している。
子育て支援をもう少し見たい、今までの現地調査では足りない、という意見がもしあれば、ということで例示している。
- ・ヒアリングとあるがこれとは別にやるのか。
(事務局) 出向くのではなく、呼んで話を聞く、という手法の違い。
- ・先ほどの公園にお母さんがいないというのはわからなかった。自分の、かつての時には、午前中は公園にいて子どもを遊ばせて、お昼を食べて、というコースだったが、今ではどうしているのか。
- ・室内や商業施設に行くことも多い。
- ・1歳2歳の子の親御さんは、どういうサービスを受けたいのかがはっきりわかっていないのではないか。
(事務局) 事務局からの提案として、例えばおこさまっぷは知るための情報誌であって、特徴を細かく説明しているものではないので、例えば幸区独自の特徴があるならば、職員にヒアリングをし、部会の中で説明を受けて、内容をチェックする、という手法も取れなくはない。
- ・お父さんが参加して、子どもと関わる日があった。そういう情報が載っていない。幸区の中でもイベントはいっぱいある。
- ・少なくとも最後の提案にあった、一番精通している行政の最前線の窓口の人にヒアリングするのは必須だと思う。
- ・ピックアップする時に、ここにある「あっぷる」と「赤ちゃんのわ」というのは利用できる人が限定されている。マンションに住んでいないと入れないサークルなので、利用者が限定されるサークルではなく、誰でも利用できる場所にするべきだと思う。
(事務局) いただいた意見を踏まえながら、担当部署と調整をする。
- ・流れとしては次回の部会で、ヒアリングの時間をとる形が良いと思う。支援の実態や、皆さんが感じていることが一つと、今回、前々回のように三つに絞って書いたときに心に響くのか、こういう点を付加した方が響くのか、改善点をもっと乗せた方が良いんじゃないかとか、そういうものを率直に言ってもらえるとありがたい。

- ・時間を1時間半のうちにどれくらいとるか。お呼びする方はプロフェッショナルだろうから、何項目かに分けて、アンケート用紙を配っておき、それを深堀りするのはどうか。ぶっつけでやると時間がかかる。

(事務局) ある程度絞ってわかりやすく説明してプレゼンする。聞く時間はカットして、説明から入るような形か。

- ・今回の三大魅力で言えば、「環境と支援で我々はこのように打ち出そうと思いますけれどもどう思いますか」ということを聞く。我々の提言に対して、足りてないところとか実態と離れているところがあれば教えてもらうとか、「保護者の立場になって、この提言を受けたらどう思いますか」など、そういう風な聞き方で出すのが良いと思う。

- ・前期の民生委員出身の人は幸区の子育て支援はとても充実していると言っていた。先入観でそう思っていたが、実際は足りていないという意見も出て、充実した、という言葉をつけていいのかどうか。

(社会空間研究所) 「子育て支援が充実しているというのを言っているが、本当はどうか、というのを確認するのも一つだと思う。三つの要素があって、これが心に響くか、響かなくても響かせるためにはどうすればいいか、という議論、次のステップに行ける。それを子育て世代の方たちに意見を聞いてみるという事でいいか。」

(事務局) 職員から見た情報。職員の中でこれは、というもの。おこさまっぷなどで出しきれていないものがあると思う。

- ・情報提供と、我々はこれを魅力として評価しているが、あなたは幸区の子育て支援策についてどういう点を評価しますか、という点を改めて考えてくださいと。逆に子育て支援策の不十分な点は何ですか、などを聞く。トータルとして、今の区民会議のB部会はこの方向で提言を固めようとしているが、これについて、あなたが一委員だったらどういう意見をお持ちですか、と最後にまとめを聞く。

(事務局) そういった点を整理して、事前に投げてプレゼンの準備をする。次の部会の中で発表とやり取りをして、それはこの中に入るといえるものがあれば追加して頂ければ。

社会空間研究所より参考資料2について説明

- ・出し方の違いであって、手法についてもう少し幅広く、全国レベルで探し回ってもっと出してもらった方が選択肢が広がる。紙だけではなく、動画のような媒体の手法も、当然費用の問題もあるが願います。
- ・基本的に、資料4の(2)の中で、まだ直しはあるかもしれないが、こういう形で幸区の良さを発信していくということでもいいだろうか。
- ・最後の発信方法についてはどうするか。紙媒体とインターネットの2本立てだ

	と思う。 (事務局) 次の部会では魅力について確認するという話が一つあるが、実践的な活動をするのかどうかというのを議論させていただきたい。区民祭で部会での成果を出すような取組をするかどうか。 ・区民祭はいいかもしれないが、時間的にはかなり厳しい。 (事務局) 区民祭ではなくても、子育てフェアさいわいなどでやるのものもあるかもしれない。中間報告的に発信するなど。 社会空間研究所 「今回立てた魅力の仮説を、どう思いますか、と聞くのも発信につながると思う。どれだけ知られていないかを知るのも、これからどう発信していかなくてはいけないかという所につながる。」 以上
--	--